

平安宮 平安宮では大規模な調査はできませんが、大極殿院をはじめとして成果があがっています。朝堂院・豊楽院の建物基壇、内裏回廊の雨落溝、周囲の官衙（役所）地域では建物跡や築地・側溝が見つかり、平安宮の様子が明らかになってきました。また、役所で用いられた硯や、かな文字を墨書した土器、中国から輸入された陶磁器などの興味深い遺物もたくさん出土しています。

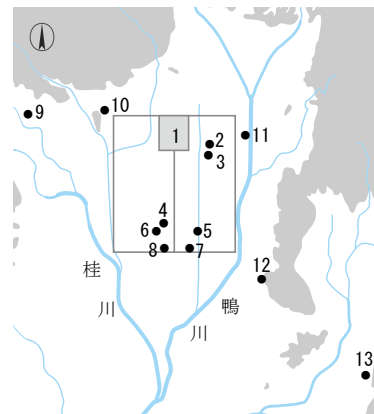
京内の寺院 平安京内には東寺と西寺の二つに限って建立が許されました。東寺は今でも大伽藍を有し、多くの信仰を集めています。西寺は平安時代中期に火災にあって以後復興されず、消滅してしまいましたが、現在、西寺公園内に講堂基壇が保存されています。発掘調査の結果、両寺は部分的な違いはあるものの、朱雀大路をはさんでほぼ対称的に伽藍が造営されていたことがわかりました。また、東寺・西寺では緑釉瓦が出土しますが、平安京内で緑釉瓦が用いられた建物は、大極殿・豊楽殿・神泉苑乾臨閣とまさに重要建物だけ

です。このことによっても東寺・西寺が特別な寺であったことがわかります。

京外の寺院 平安京外では、前期の寺院は京域から外れた所に建てられましたが、中期になると、京外でも比較的近いところに造られるようになりました。天皇によって建立された御願寺には、大覚寺、醍醐寺、仁和寺とその周辺の四円寺などがあり、貴族による寺院には法性寺や法成寺などがあります。これらの寺院はそれぞれ発掘調査を実施し、遺構・遺物を検出しています。その中で、仁和寺八角円堂と法成寺金堂には緑釉瓦が用いられ、注目されます。

市 平安京には官営の市場として東市と西市が設けられていました。発掘調査では西市の方に成果がみられます。出土遺物には、市で取り扱われた物資の名前を書いた荷札木簡や、曲げ物・物差し・木杵などの木製品、銭貨、土器などの豊富な遺物がみられます。

中期の邸宅 この頃になると、池のある庭園をもった邸宅が造られるようになります。高陽院跡・



遺跡位置図 1 平安宮跡 2 高陽院跡 3 堀河院跡 4 右京六条一坊五町 5 東市跡 6 西市跡 7 東寺 8 西寺跡 9 大覚寺 10 仁和寺・四円寺跡 11 法成寺跡 12 法性寺跡 13 醍醐寺

堀河院跡で調査を実施しました。検出した遺構はどちらも庭園で、洲浜・滝組・石組が見つっています。しかし、建物遺構はいまだに明確にできず、絵巻物に描かれたような寝殿造を検出するにはいたっていません。

平安時代前期から中期にかけて、中国の影響が大きかった建物や生活様式は日本の風土に合うように変化します。瓦の変遷をみても年表のようにしだいに簡素になっていきます。やがて、寝殿造や十二単、かな文字に代表される織細でみやびな、貴族による王朝文化の華が開きます。(前田 義明)



写真2 平安京出土の遺物 左上より硯（平安宮中務省跡ほか）、銭貨（西市跡）、鬼瓦（平安宮豊楽殿跡）、墨書土器（平安宮左兵衛府跡）、緑釉陶器（西市跡ほか）、木杵（西市跡）